とうきょう
すくわくプログラム

2歳児クラス

～冬野菜～

夏野菜を育てた後、「またおやさいやりたい」という子ども達の声が多かったので、今回は冬野菜を子ども達と一緒に育ててみることにしました。冬野菜は、土の下で成長をしていくものも多いので、夏野菜とは違った気付きや発見を子ども達と一緒に楽しみながら、“これって何だろう”“次はどうなるのかな”というワクワクした気持ちをさら見つけられたら、と思いました。

≪１回目≫　１１月１７日（月）・１１月２１日（金）

活動

子ども達と一緒に冬野菜の種を植える

準備物

・野菜の種（ほうれん草、はつか大根）

・土　　・プランター

ほうれんそう

今回は、ほうれん草とはつか大根を子ども達と一緒に育てることにしました。まずは種まきから。小さな種を見ては、「これが、おやさいのあかちゃん？」と不思議そうな顔を見せていた子ども達。種から野菜が想像されなかったようです。種の数をかぞえてみたり、種を見ながら「ちいさいね」「いっぱいできるかな？」と先のことをイメージするような言葉も聞こえたりしてきました。

はつか大根

≪２回目≫　１２月１０日（水）
活動
野菜の水やりをしよう

準備物
・カップ　・シャベル

　冬野菜に水やりを行うために、いつものようにお気に入りのカップを持ってきて水やりを始めた子ども達。カップを傾けると水は勢いよく流れてしまい、あっという間に空っぽに…。何度か繰り返した後、“はっ”と何かをひらめいた様子で砂場の道具入れの方に向かった子の姿がありました。戻ってきた子の手にはシャベルが…。何を始めるのかと思って見ていると、カップの中の水をシャベルですくって水やりをしている姿がありました。シャベルを使うことで少しずつ水をあげやすかったようです。
試して考えてまたやってみて…の一場面でした。

≪３回目≫　１２月１１日（木）
活動
散歩
（自分の体験したことを遊びの中に取り入れる）

準備物
・自然物（葉っぱ、枝）

　散歩先で遊んでいると、砂場で何かを始めた子ども達。砂場に葉っぱや枝をさしてみていました。よく話を聞いてみると、「おやさい、うえてるの～」とのこと。その後、「ほ～ら、おみずだよ」と水に見立てた砂をかけ、「おおきくなってね～」と声をかけていました。
　生活の中で体験したことを、お友達と共有しながら遊びの中で表現をしていた一場面でした。

≪４回目≫　１月１９日（月）
活動
ジョーロを使ってみよう

準備物
・ジョーロ

園庭活動時。なかなか大きくならない人参の葉っぱに、「なんで？」と首をかしげながら葉っぱを見ていた子ども達。すると、一人の子が「みずをあげればいいんだ！」とひらめき、自分たちで水やりを始めていました。

最近は、子ども達の水やりの様子を見て、新たにジョーロを購入しました。カップでは勢いよく水が流れてしまっていましたが、ジョーロを使うことで、「おみず、とおくにもあげられるね」と水やりの行いやすさを感じている子もいました。
水の量は自分で持ち運べる量を考えて入れ、お友達が「かして」と来ると「あと、いっかいやったらね」「ちょっとまっててね」と自分たちで順番を交代しながらジョーロを使っています。

≪５回目≫　１月２３日（金）
活動
冬野菜を観察してみよう

準備物
特になし

水やりをしている時に、はつかだいこんの葉っぱを見て、「このしたどうなっているの？」と土の中に興味をもった様子。“どうなってると思う？”と聞くと、「う～ん、まる？」「おやさい、できてるかもしれない」と色々な事を想像しながら言葉にしていました。「（どうなっているか）みてみたい！」という声も聞こえてきました。

≪6回目≫　2月27日（金）
活動
野菜を抜いて、どうなっているのか見てみよう

準備物
特になし

土の下ではつか大根がどうなっているのか子ども達が興味を持っていたので、数本抜いてみることにしました。そっと引き抜いては、丸く膨らんだ実に気付き、「おやさいできてる～」と大喜び。「あかいね」「なんで、あかいの？」とじっくりと観察をしていました。
その後、子ども達から出てきた疑問は、「たべられるの？」とのこと。栄養士に食べられそうかを聞いてみることにしました。“食べられるよ”との返答に大喜び。「はやくたべたいな～」と食べる日を心待ちにしていました。

≪7回目≫　3月4日（水）・3月5日（木）
活動
冬野菜を収穫しよう

準備物
・コンテナ

前回栄養士に“（はつか大根）食べられるよ”と教えてもらったので、はつか大根とほうれん草の収穫をすることにしました。葉っぱをそっと引っ張り、赤い実が土の中から顔を出すと、「でてきた～」と大喜び。「こっちはおおきいよ」「これはながーい」と、それぞれ形が異なることに気付いて見比べている子もいました。

ほうれん草は、土が固く抜きづらそうにしていましたが、“ゆらゆらって少し揺らしてごらん”と伝えてみると、「ゆらゆらゆら～」と声に出しながら、引っ張っていた子ども達。収穫を終えた野菜は、みんなで一緒に調理室の職員のところへ運び、「おいしくしてください！」とお願いをしていました。

≪8回目≫　3月5日（木）
活動
冬野菜を調理して食べよう

準備物
・茹でたほうれん草　・調味料（ツナマヨ、鰹節・醤油）
・トング　・ボウル

調理室で茹でてもらったほうれん草を、子ども達と一緒に味付けをしました。今回用意したのは、ツナマヨ・鰹節＆醤油を入れた物の２種類。それを昼食前に、トングを使って子ども達が混ぜました。おままごと等で玩具のトングをずっと使っていたからか、使い方はバッチリ。ボウルを抑えて「まぜまぜ」と言いながら全体をかき混ぜ、混ぜる時にいい匂いがしてくると、「おいしそ～」「はやくたべた～い」と話していた子ども達です。食材をトングで挟んで混ぜる姿もありました。

昼食が始まると、「おいしい～！」と言いながらパクパク食べていました。普段野菜が苦手であまり口にしない子も、「ちっちゃくする」と量を調整し、「たべるところみてて！」と、大きな口を開け、食べてみる姿がありました。

「はつかだいこんは、なんであかいの？」という子ども達の質問に、調理室の先生が理由を教えてくれました。少し難しい内容でしたが、「そうなんだ～」と真剣に聞いていた子ども達です。

≪振り返り≫

夏野菜に続いての冬野菜を育てる活動は、夏野菜の経験があるからこそ、保育士等が声を掛けずとも、自分たちで畑を見に行ったり、水やりを行ったりする姿が多く見られたような気がします。

冬野菜は、苗ではなく種植えから始まったり、実が土の中で大きくなっていったりと、子ども達が知っている野菜になるまでが想像し辛い部分もあるのかなと考えていましたが、子ども達の方から「どうなってるの？」【疑問】という声や「ぬいて、みてみたい」【もっと知りたい！】という声も聞こえ、見えない中でも子ども達は想像を膨らませながら考えたり興味関心を広げたりしていることを感じました。また、すくわくを通して経験したことはすくわく活動の中だけで終わらず、経験したこと・見たことを遊びの中に取り入れたり再現したりする姿も多く見られ、すくわくでの内容が遊びの中にも広がっていることを感じています。これらの姿は子ども達が主体的に行う遊びの中で自然と始まっているので、子ども達がやっていることに気付く保育士等の目・発展させられるような引き出しも大切になるのだと思いました。

今回は子ども達も調理に参加したことで、【育てる→調理する→食べる】と自分達で作ったものを食べる喜びが、苦手なものも食べてみようという気持ちをさらに強くしていたように感じています。【食】への興味関心が強い子ども達なので、次年度も調理室のお手伝いや食育等様々な活動を通して更なるわくわくを見つけていけたらと思います。